

農村衛生調査
(水)

昭和八年四月

保健衛生調査會第十七回報告書

① 東北北道道庁管内
(肥前市) における
農村衛生調査
結果報告書
(三三頁)
昭和八年四月一日

② 松本府
昭和八年四月一日
結果報告書
(四〇頁)

保健衛生調査會



国立公衆衛生院附屬図書館



00018293

P-A
17
17

例
言

本篇ハ昭和七年四月ヨリ昭和八年三月ニ至ル本會議
事ノ概要ニツキ輯録シタルモノナリ

昭和八年四月

保健衛生調査會

国立公衆衛生院附属図書館	
受入先	松浦十四郎先生寄贈
受入日	'98. 3. 10
登録番号	72666
所 在	
Library, National Institute of Public Health	

保健衛生調査會第十七回報告書

目次

第一章 職員	一頁
第二章 特別委員	七
第三章 議事	三
第一節 會議ノ回数	三
第二節 議案ノ件數	三
第三節 總會議事大要	四
第四節 特別委員會議事大要	二
一 衛生思想普及ニ關スル特別委員會	二
二 農村衛生狀態改善ニ關スル特別委員會	二六
三 結核豫防ノ根本的對策ニ關スル特別委員會	四〇

第一章 職員

員

(昭和八年三月三十一日現在)

委員會

委員長

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

番 番 番 番 番 番 番 番 番 番

男爵 山本達雄

磐瀬雄一

永井潜

高野岩三郎

瀨川昌世

三宅鏞一

伯爵 林春雄

柳澤保惠

齋藤隆夫

富田愛次郎

富士川米次

十二番
十三番
十四番
十五番
十六番
十七番
十八番
十九番
二十番
二十一番
二十二番
二十三番
二十四番
二十五番
二十六番

安井英二
光田健輔
赤松小寅
長與又郎
三田定則
內野仙一
岡村龍彦
北島多一
戶田正三
佐伯矩
秦佐八郎
勝田永吉
唐澤光德
矢作榮藏

二十七番
二十八番
二十九番
三十番
三十一番
三十二番
三十三番
三十四番
三十五番
三十六番
三十七番
三十八番
三十九番
四十番
四十一番

奧村鶴吉
衣笠豐
三宅秀
宮入慶之助
潮惠之輔
橫手千代之助
藤井真信
北山豐吉
栗山重信
栗津清亮
宮島幹之助
龜田豐治朗
古瀬安俊
岩住良治
那須皓

四十二番
四十三番
四十四番
四十五番
四十六番
四十七番
四十八番
四十九番
五十番
五十一番
五十二番
五十三番
五十四番
五十五番
五十六番

武藤喜一郎
津野慶太郎
田澤鏢二
國府田中
金杉英五郎
馬淵銳太郎
合田平
矢野恒太郎
西野忠次郎
中原新三
小原新三
男爵山川建
平原泰一
平井宣英
大島辰次郎

幹事

備考

鈴木喜三郎ハ昭和七年五月二十六日依願内務大臣ヲ免セラレ會長ヲ退ク

男爵山本達雄ハ昭和七年五月二十六日内務大臣ニ任セラレ會長トナル

松野鶴平ハ昭和七年五月二十七日依願内務政務次官ヲ免セラレ委員ヲ退ク

齋藤隆夫ハ昭和七年六月一日内務政務次官ニ任セラレ同年同月二十一日委員被仰付

河原田稼吉ハ昭和七年五月二十七日依願内務次官ヲ免セラレ委員ヲ退ク

潮恵之輔ハ昭和七年五月二十七日内務次官ニ任セラレ同年六月十五日委員被仰付

藤井達也ハ昭和七年五月二十七日依願内務參與官ヲ免セラレ委員ヲ退ク

勝田永吉ハ昭和七年六月一日内務參與官ニ任セラレ同年同月二十一日委員被仰付

白松篤樹
藤原孝夫
高野六郎
南崎雄七
野邊地慶三

安井英二ハ昭和七年四月十二日委員被仰付
 赤松小寅ハ昭和七年三月四日社會局部長ニ任ゼラレ同年四月十二日委員被仰付
 衛生試験所技師衣笠豊ハ昭和七年四月十二日委員被仰付
 大藏省主計局長藤井真信ハ昭和八年一月十六日委員被仰付
 陸軍軍醫總監合田平ハ昭和八年一月十六日臨時委員被仰付
 海軍軍醫中將國府田中ハ昭和八年一月十六日臨時委員被仰付
 文部書記官男爵山川建ハ昭和八年一月十六日臨時委員被仰付
 簡易保險局長平井宣英ハ昭和八年一月十六日臨時委員被仰付
 馬淵銳太郎ハ昭和八年一月十六日臨時委員被仰付
 小原新三ハ昭和八年一月十六日臨時委員被仰付
 中川 望ハ昭和八年一月十六日臨時委員被仰付
 金杉英五郎ハ昭和八年一月十六日臨時委員被仰付
 西野忠次郎ハ昭和八年一月十六日臨時委員被仰付
 矢野恒太ハ昭和八年一月十六日臨時委員被仰付
 原 泰一ハ昭和八年一月十六日臨時委員被仰付

田澤鏡二ハ昭和八年一月十六日臨時委員被仰付
 委員栗本庸勝ハ昭和八年三月九日死去
 三浦直彦ハ昭和七年六月三十日徳島縣書記官ニ任ゼラレ幹事ヲ退ク
 藤原孝夫ハ昭和七年六月三十日内務書記官ニ任ゼラレ同年七月十六日幹事被仰付

第二章 特別委員 (昭和八年三月三十一日現在)

一、衛生思想普及ニ關スル件

特別委員長
 委員

北	内	宮	林	永	磐	三
島	野	川		井	瀬	宅
多	仙	末	春		雄	
一	一	次	雄	潜	一	秀

一、都市衛生狀態改善ニ關スル件

特別委員長

委員

伯爵

柳澤保惠

高野岩三郎

北島多一

矢作榮藏

潮惠之輔

横手千代之助

九

佐伯矩

唐澤光徳

奥村鶴吉

横手千代之助

宮島幹之助

一、乳兒及幼兒ノ死亡率低減ニ關スル件

特別委員長

委員

伯爵

柳澤保惠

磐瀬雄一

高野岩三郎

瀬川昌世

北島多一

佐伯矩

唐澤光徳

三宅秀

潮惠之輔

横手千代之助

龜田豐治朗

古瀬安俊

一、民族衛生ニ關スル件

特別委員長

北島多一

九

委員

一〇

磐瀬雄一

永井潜

瀬川昌世

三宅鑛一

富田愛次郎

長與又郎

三田定則

岡村龍彦

栗山重信

岩住良治

大島辰次郎

一、農村衛生狀態改善ニ關スル件

特別委員長

伯爵柳澤保惠

委員

宮川米次

一、結核豫防ノ根本的對策ニ關スル件

特別委員長

委員

佐伯矩

唐澤光德

矢作榮藏

横手千代之助

宮島幹之助

那須皓

大島辰次郎

金杉英五郎

富田愛次郎

宮川米次

赤松小寅

長與又郎

北島多一

原	山	小	中	西	矢	合	馬	國	田	古	宮	栗	唐	佐
川	原	川	野	野	田	淵	府	澤	瀨	山	島	山	澤	伯
泰	新		忠	恒		銳	田	鐐	安	幹	重	光		
建	三	望	郎	太	平	郎	中	二	俊	助	信	德	矩	

第三章 議 事

第一節 會議ノ回数

會 別	月 別	昭和八年												計
		四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	
總 計		1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
特 別 委 員 會		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

第二節 議案ノ件數

會 別	程 別	昭和八年												計
		四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	
總 計		1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
特 別 委 員 會		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

第三節 總會議事大要

昭和八年一月二十日午後二時ヨリ内務省會議室ニ於テ開會

出席者 山本會長

瀬川、林、富田、宮川、安井、光田、長興、三田、内野、岡村、北島、戸田、佐伯
泰、矢作、奥村、衣笠、三宅(秀)、宮入、横手、北、栗山、宮島、龜田、古瀬、岩
住、那須、武藤、津野、田澤、國府田、金杉、馬淵、合田、矢野、西野、中川、小
原、山川男、原、平井、大島各委員

白松、藤原、高野、南崎、野邊地各幹事

會長(挨拶) 私ハ曩ニ内務大臣ヲ拜命イタシ、此ノ會ニ關係スルコトニ相成リマシタガ、玆ニ開會
ノ初メニ當リマシテ一言御挨拶ヲ申上ゲマスコトヲ欣幸ト存ズルデアリマス
皆様ノ中ニハ今回初メテ御苦勞ヲ御願ヒスルヤウニナツタ方モアリマスガ、大多數ノ方々ニハ從來
長ク此ノ調査會ノ委員トシテ、公衆衛生ニ關スル發達改善上多大ノ御貢獻ヲ願ツテ居リマシテ、私
ノ豫々感謝致シテ居ル所デゴザイマス、申上ゲル迄モナク衛生行政ノ振興ヲ期シ、國民保健ノ改善
ヲ圖リマスルコトハ、國利民福ノ基調ヲ培フ所以デアリマシテ極メテ緊要ナ事務デゴザイマス

依ツテ私ハ偏ニ皆様ノ御審議御調査ノ結果ニ俟チマシテ保健衛生ノ方面ニ及ブ限リ力ヲ盡シタイト
考ヘマスノデ此ノ上トモ御盡力ヲ煩シタイト存ジマス、本日ハ結核豫防ノ根本的對策ニ付キマシテ
御審議ヲ願フ爲ニ御參集ヲ願ヒマシタ次第デゴザイマス、御承知ノ通り結核ハ國民保健上ノ重要ナ
ル問題デアリマシテ、其ノ豫防ノ效果ヲ擧ゲ得ルト否トハ國運ノ消長ニモ影響スルコトガ重大ナル
事項デアリマスカラ、何卒本問題ニ對スル將來ノ國策ヲ決定スルト云フ御心持デ御熱誠ヲ以テ十分
ノ御審議ヲ竭サレ、御答申アラムコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス、以上ヲ以テ御挨拶ト致シマ
ス

會長 議案ニ入ルニ先ダチ幹事ヨリ事務上ノ報告ヲナサシムベキ旨ヲ述ブ

藤原幹事 事務報告(報告ノ内容ハ職員ノ備考欄ニ掲載ノモノト大體同様ニツキ此所ニ省略ス)

會長 本日ノ議案即チ結核豫防ノ根本的對策如何ヲ議題トシテ審議願ヒタキ旨及衛生局長ヨリ右ニ
ツキ一應説明致サスベキ旨ヲ述ブ

大島衛生局長 諮問ノ趣旨説明

只今諮問ニナリマシタ所ノ、結核豫防ノ根本的對策如何ト云フ問題ノ、提案ノ理由ヲ私ヨリ簡單ニ
御説明致シタイト存ズルデアリマス、最近ノ統計ニ依リマスト、昭和五年我國ニ於キマスル結核
死亡ノ數ハ十一萬九千六百三十五人デアリマシテ、人口一萬ニ對スル死亡數ガ十八人五分六厘デア

リマシテ、死亡原因ト致シマシテハ、下痢及ビ腸炎ニ亞グノデアリマスルガ、若シ統計ニ顯レテ居リマセヌ所ノ結核死亡ヲ考フルニ於キマシテハ、恐ラク結核死亡ハ我國死亡原因中ノ第一位ヲ占メルモノト想像サレルノデアリマス、又結核死亡ノ年齡階級ヲ考ヘマスレバ、下痢及ビ腸炎ガ事ヲ小兒ノ病氣デアリマスルノニ反シマシテ、結核ハ主トシテ青年期ノ疾患デアリマシテ、之ニ依テ受ケマスル所ノ國民ノ損害ハ、實ニ莫大ナルモノガアルト考ヘルノデアリマス、我國ニハ未ダ結核届出制度ガナイ爲ニ、結核患者數ヲ詳細ニ知ルコトハ出來マセヌガ、假リニ之ヲ死亡一ニ對シマシテ患者十人アリト推算致シマスレバ、約百二十萬人ノ結核患者ガアリ、總人口ニ對シテ略々二%ノ結核患者ヲ想像スルコトガ出來ルノデアリマス、即チ平均十家族ニ對シマシテ一人ノ結核患者ヲ推定スルコトガ出來ルノデアリマス、結核患者ヲ有スル家庭ガ精神的ニ申シマシテモ、又物質的ニ考ヘマシテモ、如何ナル慘害ヲ受ケテ居リマスルカハ、敢テ申上ゲル必要ハナイノデアリマス、之ヲ行政ノ方面カラ觀マスレバ、一般衛生行政ハ素ヨリ、社會救護ノ方面ニ於キマシテ、又産業ノ方面ニ於キマシテ、又教育ノ方面ニ於キマシテ、更ニ又國防ノ方面ニ於キマシテ、即チ殆ド凡ユル方面ニ於テ結核ガ重大ナル關係ヲ持ツテ居リマスルコトハ明ラカデアアルノデアリマシテ、結核ガ正ニ國民ノ活力ノ根柢ヲ蝕ミツ、アルモノト言ツテモ過言デハナイト信ズルノデアリマス、斯ノ如キ國民衛生上極メテ重要ナル結核ニ對シマシテ、最善ノ努力ヲ竭スベキハ當然ノコトデアリマスルガ、我國ノ

現状ハ未ダ遺憾ノ點ガ甚ダ多イノデアリマス、現行結核豫防法ハ大正八年ノ制定デアリマスルガ、今日ニ於キマシテハ其ノ規定スル所ガ狹キニ失スルコトヲ感ゼシメマス、又法律ノ規定スル所デアリマシテモ、十分ノ施設ニ達シナイモノガアリマス、例ヘマスレバ結核病床ノ如キ、死者一人ニ對シマシテ少クモ一箇ノ病床ヲ要求致シマスルコトヲ通則ト致シマスルノニ、我國ニ於キマシテハ死者二十人ニ對シテ僅ニ漸ク一ツノ病床ヲ持ツニ過ギナイヤウナ狀態デアリマス、結核相談所ノ如キハ全國ニ網ノ目ノ如ク置クコトヲ理想トスルノデアリマスルガ、我が國ニ於キマシテハ僅ニ少數ノ標本的ノ存在ヲ見ルニ過ギナイノデアリマス、其ノ他結核豫防施設ニハ色々アリマスルガ、一言ニシテ之ヲ盡シマスルナラバ、我々ノ施設ノ現況ハ貧弱ヲ極メルト言フ外ハナイノデアリマス、國際聯盟保健部ノ報告ニ依リマスルト、結核豫防費ノ總額ハ國民ノ一人當リ、英國ニ於テハ「二シリシグ」、佛蘭西ハ「二金フラン」獨逸ハ「二マルク」デアリマシテ、大體此ノ程度ヲ標準ニスベキモノノ如クデアリマスルガ、我國ニ於ケル結核豫防費ハ國庫ト地方費ノ支出ヲ合セマシテモ、僅ニ二三百萬圓ノ程度デアラウト思ハレルノデアリマス、近頃會心ノ事實トシテ日本放送協會ノ納付金七十七萬圓ヲ加ヘマシテ、結核豫防施設ニ當テテ居リマスルガ、之ヲ加ヘマシテモ只今申上ゲマシタ所ノ金額ニ過ギナイヤウナ狀態デアリマス、外國ニ於キマシテハ結核豫防資金ハ社會保健事業ト深イ關係ヲ持ツノデアリマスルガ、我々ハ何レノ方面ニ結核豫防ノ財源ヲ求ムベキカ、是ハ重要ナリ、且

ツ根本的ノ問題ト存ズルデアリマス、我國ノ結核豫防事業ガ何故ニ斯ノ如ク振ハナイカト云フ原因ヲ考ヘテ見マスルト、先ヅ結核豫防ノ根本對策ガ確立シテ居ラヌコトガ、其ノ重要ナル原因ヲ爲シテ居ルカト思フデアリマス、之ニ伴ヒマシテ結核豫防ノ認識ガ、國民一般ヲ通ジマシテ缺如シテ居ルノモ原因ノ一ツデアリマス、計畫ノ大綱ガ決定致シマシテ、國民ガ其ノ必要ヲ痛感致シマシテ、茲ニ結核豫防撲滅ノ機運ガ起リマスルニ於キマシテハ、財源ノ捻出ト云フヤウナコトモ困難デナクナルデアラウカト思フデアリマス、結核豫防ハ主トシテ内務省衛生局ノ擔當スル事務デアリマスルガ、學校衛生、工場衛生、軍隊衛生等ニ於キマシテモ可ナリニ重大ナ問題デアリ、且ツソレ等ノ結核豫防施設ト一般衛生行政ノ結核豫防施設トハ密接ナル交渉ヲ持ツモノデアリマス、各方面分擔ノ結核豫防事業ヲソレノ發展セシムルコトガ素ヨリ大切デアリマスルガ、ソレニハ相互提携シテ共同戰線ヲ張ツテ進ミ、又相互ノ事業ノ間ニ緊密ナル聯繫ヲ保ツコトガ必要デアラウト思フデアリマス、結核ハ實ニ一ノ國難ト見ルベキモノデアリ、其ノ對策ハ所謂國策ヲ以テ目スベキモノデアラウカト思ヒマス、此ノ國策樹立ノ爲ニハ各關係官廳、並ニ民間ノ衛生關係有力團體ガ、相寄り相審議致シマシテ、其ノ一致シタル意見ニ基イテ一定ノ方針ヲ定メ、之ニ從ツテ進ムコトガ最も肝要ナコトデアラウト思フデアリマス、今回保健衛生調查會ニ臨時委員ヲ加ヘマシテ、本問題ヲ當會ニ諮問致サレマシタノモ、畢竟斯ノ如クニシテ完全ナル結核豫防國策ノ確定ニ達セムコトヲ

望マル、ガ爲ニ外ナラヌコト、存ジマス、歐米諸國ノ結核豫防事業ハ、漸ク過去三十年來ノコトデアリマスルガ、既ニ結核死亡率ヲ三分ノ一ニモ減ジテ居ルモノガ少クナイデアリマシテ、死亡率ガ一旦降り坂ノ趨勢ヲ呈スルニ於キマシテハ、其ノ後ノ豫防成績ハ益々良好トナルデアリマシテ、結核ノ減ジタル爲ニ國民ノ享クル利益ノ莫大ナルコトハ言フ迄モナイデアリマス、今ヤ彼等ノ衛生施設ハ殆ド結核撲滅ヲ目標トシテ進ンデ居ル趣ガアリマス、一日モ早く結核ヲ少クスレバ、ソレダケ國民民福ヲ増加スルコトナリ、反對ニ結核ノ蔓延ニ委シテ置キマスレバ、直チニ國力疲弊ノ禍根トナルデアリマスカラ、一日モ忽ニスルコトヲ許サナイ問題デアルコトハ申上グル迄モナイデアリマス、委員各位ニ於カレマシテハ此ノ重大ナル諮問ニ對シテ十分ナル研究調査ヲ盡サレマシテ全國國民ノ進ムベキ路ヲ指導スルヤウナ對策ヲ御示シアラムコトヲ希望スル次第デアリマス、之ヲ以テ御説明ト致シマス

會長 質問又ハ意見アラバ此ノ際發言アリタキ旨ヲ述ブ

宮島委員 諮問ノ趣旨ニハ双手ヲ舉ゲテ賛成デアル又ラデオ納付金モ結核豫防事業ニ其ノ全額ヲ使用シ得ルニ至リタルハ寔ニ慶賀スベキコトデアアル唯各府縣ヘノ配布ガ聽取料ノ額ニ比例シテ即チ聽取料ノ多ク上ガル地方ハ多額ニソノ少ナイ地方ハ少額ノ交付ヲ見ルハ遺憾デアアル少額ノ配布ヲ受クルガ如キ地方ハ文化遅レ結核ノ豫防ハ却ツテ一層緊要ナル事情モアレバ何ントカ交付方ニツキ考慮シ

一層有效ニ之ガ使用ヲ見ルコトヲ望ム

金杉委員 結核豫防ノコトハ國民保健上ハ固ヨリ國運ノ振否ニ關スル重要案件デアツテ今日之ガ根本對策ヲ考究スルハ寧ロ其ノ遅カリシヲ思フ位デアル而シテ結核豫防ノ事タル極メテ緊要且複雑ナル問題ナルヲ以テ之ガ爲特ニ特別委員ヲ舉ゲテ慎重審議セラレムコトヲ望ム其ノ委員ノ數及指名ハ會長ニ一任致シタシト述ブ

北島委員 賛成

會長 金杉委員ノ動議タル結核豫防ノ根本的對策ニ關スル特別委員設置ノ件ヲ諮リ滿場異議ナク可決アリタルヲ以テ該委員トシテ左ノ通り指名アリ

九番	富田委員	十一番	宮川委員
十四番	赤松委員	十五番	長與委員
十九番	北島委員	二十二番	佐伯委員
二十五番	唐澤委員	三十五番	栗山委員
三十七番	宮島委員	三十九番	古瀨委員
四十四番	田澤委員	四十五番	國府田委員
四十六番	金杉委員	四十七番	馬淵委員

四十八番	合田委員	四十九番	矢野委員
五十番	西野委員	五十一番	中川委員
五十二番	小原委員	五十三番	山川委員
五十四番	原委員	五十五番	平井委員
五十六番	大島委員		

午後二時五十五分散會

第四節 特別委員會議事大要

一、衛生思想普及ニ關スル特別委員會

昭和八年一月十七日午後一時四十分ヨリ內務省保健課長室ニ於テ開會
出席者 三宅委員長

宮川、內野、北島、佐伯、唐澤、奥村、宮島各委員
藤原、南崎、野邊地各幹事

議事ノ經過

委員長 開會ヲ告ゲ藤原幹事ヨリ從來ノ經過ニツキ別項ノ通り報告

一、宮島委員ノ動議ニテ「民族ノ將來」ハ三宅委員ヲ煩サズシテ永井潜博士ニ委嘱スルコトニ決定

一、宮島委員ノ提案ニ依リ協議ノ結果小冊子ノ改善、頒布方ニツキ左ノ各項ヲ決定

1、既刊ノモノデモ時勢ニ從ツテ改訂スルコト

2、保險會社ヘモ販賣方ヲ交渉スルコト

3、文部省ト協力シテ學校方面ヘ配布スルコト

4、雜誌店ヘ委託販賣スルコト

二、唐澤委員ノ動議ニテ「暖房の話」ナル小冊子ノ執筆ヲ大阪ノ藤原博士ニ委嘱スルコトニ決定

午後三時散會

(別項) 衛生讀本編纂ノ件

大正十年六月二十二日ノ總會ニ於テ從來ノ部制ヲ廢止シ調査事項毎ニ特別委員ヲ設クルコトノ改正ノ件ヲ議決シ其ノ結果衛生思想普及ニ關スル特別委員モ設置セラレ

第一回 大正十年七月七日(衛生思想普及ニ關スル特別委員會)

特別委員長ノ選任及衛生思想普及ニ關スル方法ニツキ審議

第二回 大正十年七月十四日(特別委員會)

前回ニ引續キ衛生思想ノ普及方法ニツキ審議ヲ重ネ其ノ一方法タル「衛生讀本編纂ニ關スル件」ニ

就テハ之ガ參考資料ノ蒐集及準備委員選定ノ件ヲ可決シ準備委員トシテ三宅 秀、永井 潜ノ兩委

員ヲ推薦ス

第三回 大正十年七月二十二日(準備委員會)

編纂ニ關スル特別小委員トシテ三宅 秀、永井 潜、佐伯 矩、横手千代之助、宮島幹之助ノ五委

員ヲ選定シ讀本ノ内容ハ中等學校若ハ高等女學校卒業程度トスルコトニ決ス

第四回 大正十年七月二十七日(特別委員會)

衛生讀本ニ關シ準備委員會ノ經過ヲ報告シ承認ヲ求ム

第五回 大正十年九月十四日(小委員會)

衛生讀本編纂資料ノ審議

第六回 大正十年九月二十日(小委員會)

讀本ノ篇別及執筆ノ分擔ヲ左ノ通り定ム

第一篇 生命と自然界

永井委員

第二篇 榮養と嗜好

佐伯委員

第三篇 住居と被服 横手委員
第四篇 活動と休養 永井委員
第五篇 保健と鍛錬 永井委員
第六篇 保健の障害 宮島委員
第七篇 民族の將來 三宅委員
其ノ後屢次會議ヲ開キ執筆方ノ促進ヲ圖リシガ現在執筆ヲ了セルモノハ左ノ三篇ニシテ何レモ不取敢
小冊子トシテ刊行セリ

- 第一篇 生命と自然界 昭和四年八月印刷
第二篇 榮養と嗜好 昭和六年一月印刷
第三篇 住居と被服 大正十四年十月印刷

小冊子刊行ノ件

大正十年七月十四日開會ノ衛生思想普及ニ關スル特別委員會ニ於テ衛生思想普及ノ一方法トシテ小冊子編纂ノ件ヲ可決シ爾後屢次會議ヲ開キ題目及執筆者ヲ定メ執筆方ノ促進ヲ圖リ來リシガ今日迄ニ刊行シタル小冊子ハ二十六種ニシテ尙未刊行ノ分ハ左ノ如シ

題 名	依頼執筆者	執筆依頼年月
調理と食べ方	佐伯委員	大正十三年十二月
皮膚の鍛錬	林 委員	右ニ同ジ
婦人の衛生	磐瀬委員	大正十五年十一月
小兒の傳染病	唐澤委員	右ニ同ジ
飲み水の良し惡し	横手委員	右ニ同ジ
優生學の話	永井委員	右ニ同ジ

一、農村衛生狀態改善ニ關スル特別委員會

第十二回

昭和七年五月四日午前九時上野驛發
委 員 長 柳澤伯爵

佐伯、唐澤、宮島、大島各委員
南崎幹事

群馬縣北甘樂郡福島町大字小川字多井戸ニ於ケル農村榮養改善ノ實地指導狀況ヲ視察シ午後六時五分

第十三回

昭和七年五月二十三日午後一時四十分ヨリ内務省會議室ニ於テ開會

出席者 委員長 柳澤伯爵

宮川、栗本、佐伯、唐澤、矢作、大島、宮島、那須各委員

三浦、高野、南崎、野邊地各幹事

議事ノ經過

一、柳澤委員長、開會ヲ宣シ南崎幹事ヨリ去ル五月四日視察シタル群馬縣ニ於ケル農村民ノ榮養改善指導施設ニツキ視察ノ結果ヲ報告シ別記報告書ヲ提出シタル次第ヲ述ブ

一、三浦幹事 縣當局ハ之ノ事業ヲ續行シタキモ特ニ豫算モナキコト故本省ヨリ補助アリタシトノ申出アリ依テ保健衛生調査及獎勵費中ヨリ二百圓補助致シタキ内意アル旨ヲ述ブ

一、宮島委員 農村衛生狀態ノ改善上好參考資料トナルベキヲ以テ縣當局ヲ督勵シテ少クトモ一ケ年位此ノ事業ヲ續行セシメラレタシ

一、大島局長 農村ノ榮養改善上適ハシキ事業ナリ之ガ成績ヲ見ル迄ニ一年位續行セシメタキモ縣ニ

十分ノ豫算モナキ様ナルモ保健衛生調査會ノ御意見モアリ内務省ニテモ善キ事業ト思フノデ二百圓補助シタシ從來ノ御審議ニ對シ御禮ヲ申上グルト共ニオ含ミ置キヲ乞フ

一、柳澤委員長 群馬縣ニ於ケル右施設ノ狀況報告及成績報告ハ他ノ府縣ニモ參考トシテ配布アリタシ

一、唐澤委員 過日視察ノ村ハ有福ノ部落ノ如キモカ、ル施設ハ貧弱ノ部落ニモ試ミタシ

一、柳澤委員長 次ニ先般榮養ノ實地指導ノタメ東北及北海道ノ凶作地ニ出張セラレタル榮養研究所技師原徹一氏ヨリ報告ヲ承ハルベシ

原技師報告要旨

指導ノ方法

- (一) 打合、當局ト罹災民救濟方法ニ就キ打合セラナス
- (二) 講演、罹災民ノ指導者ニ榮養ノ知識ヲ與フ
- (三) 實地指導、主ナル罹災地ヲ訪問シテ其ノ實狀ヲ調査シ其ノ地方ニ即シタル榮養改善ノ方法ヲ講ズ

- (四) バンフレット配布、榮養缺陷防止、食物ノ配合、献立ノ作り方、救荒食品等ニ關スル「バンフレット」ヲ作成シ之ヲ一般ニ配布シテ榮養知識ノ普及ニ力ム

右ノ方針ニ基キ北海道、青森縣、岩手縣、秋田縣、山形縣ニ於テ指導シタル狀況ヲ述ベ之ヲ次ノ通り要約シ報告ヲ了ハル

一、榮養ノ實地指導ハ眞ニ時機ニ適セル施設ナリトテ各地方皆之ヲ歡迎シ齊シク内務省ノ厚意ヲ感謝セリ

一、各地方共罹災民ノ榮養攝取ノ狀態ハ不可ナリ又當局ノ給與方法ニモ榮養上遺憾ノ點アリ、之ニ對シ小官等ハ佐伯所長ノ指示要項ニ從ヒ食品ノ購入及配給、救恤品ノ選擇等ニ關シ當局ヲ指導スルト共ニ罹災民ノ榮養障害豫防上最モ效果多キ食品ヲ一般ニ知ラシムル事ニ力メタリ、其ノ食品ヲ舉グレバ次ノ如シ

鰯、鯨、魚粉、馬肉、脫脂乳、海藻、モヤシ等

一、罹災民ノ榮養攝取ニ不合理ナルトコロアルハ物資ノ不足或ハ缺乏ニ因ルトコロ元ヨリ大ナレドモ、亦當局並ニ一般住民ニ榮養ノ知識ヲ缺クトコロアルニ因ル事モ同シク大ナリ、之ガ啓發指導ノ爲講演、實地指導「パンフレット」配布等ヲ行ヒタリ

一、凶作ノ影響ニヨリ罹災民ハ未ダ（昭和七年二月現在）著シキ保健障害ヲ受ケズト當局ハ一樣ニ認メ居タルモ胃腸障害ヲ初メトシ妊産婦障害、感冒罹患等ノ増加シツ、アル現狀ニ鑑ミレバ凶作ノ影響著シカラズト斷言スルヲ得ズ、又缺食兒童ハ日日ニ増加シツ、アリト言フ、此等兒童ノ欠食又ハ

榮養不適ニヨル發育障害モ亦保健上看過スベカラザル問題タルヤ言フ要セザルトコロナリ

一、當局ハ救濟ニ當リテ榮養第一主義ヲ採ルニ至リ、講演ハ幸ニシテ毎回盛會ヲ極メ又「パンフレット」ハ廣ク利用セラレタリト信ズ、然レドモ元ヨリ此ノ種啓發指導ハ部分的ニシテ而モ一時的ニ屬ス、而シテ一般住民ノ知識狀態ハ極メテ低ク、而モ住民ノ保健狀態ハ日日憂慮スベキ狀態ニ陥リツ、アルヲ以テ、榮養ノ改善實施ニモ亦知識ノ啓蒙ニモ榮養技術官ヲ常置シ指導セシムルコト極メテ肝要ナリト思料ス

一、學校給食問題ニ關シ當局ハ從來ノ單ナル救濟主義ヲ廢シ榮養改善ヲ第一要義トスルニ至リタルハ著シキ進步ナリ

一、畜産聯合組合ガ主體トナリテ搗粉禁止運動ヲ開始セリ、國民保健、畜産増殖ノ爲慶賀ニ堪ヘズ、講演ノ反映ト認メ欣快トスルトコロナリ

（午後三時三十分散會）

群馬縣下村落榮養改善指導狀況實地視察報告書（寫）

群馬縣北甘樂郡福島町大字小川字多井戸ニ於ケル村民榮養改善狀況視察候處別紙ノ通りニ有之此段及報告候也

昭和七年五月五日

保健衛生調査會農村衛生狀態改善ニ關スル特別委員會

委員長	伯爵	柳澤保惠
委員	宮島幹之助	
同	佐伯矩	
同	大島辰次郎	
同	唐澤光德	

保健衛生調査會長 鈴木喜三郎殿

我國ノ農村衛生ガ從來等閑視サレ爲メニ農村住民ノ健康上種々ノ障害アルコトノ實證ハ先年保健衛生調査會ノ提唱ニヨリ内務省及地方廳ニ行テ行ヒタル農村衛生實地調査ノ結果ニヨリ闡明サレシ所ナルガ就中農村住民ノ榮養問題ハ農民ノ疾病豫防、健康増進、能率増加等ト密接ノ關係アリ延イテハ國家ノ産業經濟上ニ及ボス影響大ナルモノアルコトハ今更多言ヲ要セズ

然ルニ現在ニアリテハ未ダ一般農村ニ於ケル榮養改善ニ付キ何等見ルヘキモノナキ狀況ニアルハ甚ダ遺憾トスル所ナリシガ去ル五月四日我々ノ視察セル群馬縣ノ指導ニカハル同縣北甘樂郡福島町大字小川字多井戸住民ニ對スル榮養改善ハ極テ輕少ノ費用ニヨリ合理的ニ所要榮養食ヲ與ヘ住民ヲシテ合理

榮養ノ實際的効果ヲ感知セシメツ、アリ斯クノ如キ指導ハ從來無智ナリシ農村住民ヲシテ科學ヲ基礎トセル衛生的生活改善ガ如何ニ有効ナルカラ覺醒セシムル上ニ於テ適切ナル施設ト存ゼラユ農村衛生改善對策上ノ參考トナルモノ少ナカラザルヲ信ズルヲ以テ此ノ種施設ニ對シテ當局ニ於テモ之ガ助成獎勵ノ途ヲ講スル様致サレ度別紙參考書添付此段報告ス（參考書省略）

第十四回

昭和七年十月二十八日午後一時五十分内務省會議室ニ於テ開會

出席者 委員長 柳澤伯爵

宮川、栗本、佐伯、唐澤、矢作、衣笠

大島各委員

藤原、白松、南崎、野邊地各幹事

議事ノ經過

委員長 開會ヲ告ゲ本日ハ飲料水ノ改善ニ關シテハ第四回目ノ會合ナルガ其ノ第一回ノ會合ノ際井戸其ノ他飲料水ノ改善ニ關スル指針ヲ作成スルコトニ意見ノ一致ヲ見タルガ本日ハ幹事ヨリ其ノ案ノ提出アリタルヲ以テ先ヅ之ニツキ審議シ次イデ簡易水道ニ關スル講話ヲ聽取シ終リニ最近衛生局ニ

テ調査シタル飲料水ニ關スル統計報告ヲ聴取スベシト述ブ
藤原幹事ヨリ主務課長ノ更迭、議會關係、飲料水ノ調査ニ相當日數ヲ要シタルコト等相俟ツテ本年一月以來今日マデ本特別委員會ヲ開會スルニ至ラザリシコトニツキ諒解ヲ求メ更ニ指針ニ就テハ權威アルモノヲ作成シ廣ク頒布シテ飲料水改善ノ一助タラシメタキ希望ヲ述べ、提出ノ農村飲料水改善指針案ニツキ説明ヲナス

一、指針案ニツキ審議ノ結果本指針ノ内容ハ一見明治初年程度ノ狀況ニ適應スルガ如キモ飲料水ノ改善ニ就テハ未ダ尙コノ程度ノモノヲ作成スルヲ以テ時宜ニ適セルコト
流シ元及下水溝ヲ獨立ノ二項目トスルコト

二ト四トハ操作上不可分ナルヲ以テ四ヲ三ト入レ代フルコト

新規ノ方式例ヘバ深井戸ノ場合ニ處スル「バケツ」附「チエーン、ポンプ」ノ如キモノヲ示スモ一方法ナルコト

工費ニ就テハ全項ニ亘リ記述スルコト等ノ意見出デタリ本件ハ更ニ指針原文作製ノ上審議スルコトニ決定

一、次ギニ豫定ヲ變更シテ南崎幹事ヨリ飲料水ニ關スル調査統計ニツキ報告説明スルトゴロアリ

一、終リテ河口内務技師ヨリ簡易水道ニ關スル講話ヲ聴取シ午後四時五十分散會

ソノ講話ノ要旨左ノ如シ
簡易水道ノ定義

- 一、地方長官ニ認可ノ權限ヲ委任シテアル計畫人口一萬ヲ超エザルモノ
- 二、規模小ニシテ操作簡易ナルモノ
- 三、自家用水道

農村及小都市ニ於ケル簡易水道トハ大體定義ニ入ルベキモノト思惟ス

講話ノ順序トシテ普通ノ水道ニツキ説明ヲナシ其ノ中ノ如何ナル點ヲ簡易ニセシモノガ簡易水道ナルカラ述ブ

一、水

量

一人一日ノ平均給水量

大都市

一五〇リター

二〇〇

中都市

一二〇

小都市

八〇

農村

五〇

質

水

八〇(三立方尺乃至二立方尺)

相當淨化方法ヲ講ズルコト